

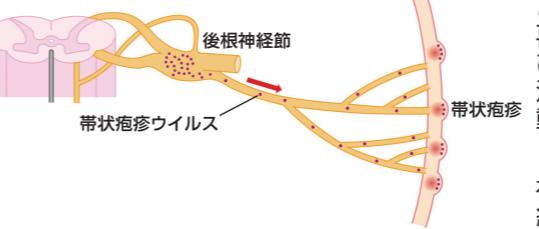
特集 帯状疱疹について知つておこひ

2025年度から65歳の方などへの帯状疱疹ワクチンの予防接種が、予防接種法に基づく定期接種の対象になりました。この機会に帯状疱疹とはどのような病気なのか、またその予防についてお伝えいたします。

帯状疱疹とは？

皆さんは「帯状疱疹（たいじょう ほうしん）」という病気をご存じでしょうか。テレビや新聞などでも取り上げられる機会が増え、聞いたことがあるという方も多いと思います。帯状疱疹の原因は「水痘带状疱疹ウイルス（VZV）」で、水ぼうそうの原因ウイルスと同じものです。幼少期に水ぼうそうにかかった後、このウイルスは脊髄の神経節に潜伏し、加齢や疲労、ストレスなどで免疫力が低下すると再び活動し、神経や皮膚で炎症を起こします（再活性化）。

日本人の50歳以上では、VZVの抗体保有率は90%以上とされ、ほとんどの方が体内にウイルスを抱えています。つまり誰にでも発症の可能性があり、実際に80歳までに約3人に1人が帯状疱疹を経験するとされています。




帯状疱疹の症状

再活性化したVZVは神経に沿って皮膚へ到達し、痛みや発疹を引き起こします。まず皮膚の違和感やピリピリとした痛みが現れ、数日～1週間ほどして赤い斑点や水ぶくれ（水疱）が出現します。発疹は体の片側に帯状に広がるのが特徴で、水疱がかさぶたになるまで1～2週間程度かかります。治療後も「帯状疱疹後神経痛（PHN）」という強い痛みが残る場合があり、約2割の患者さんが数ヶ月～数年続くことがあります。さらに、顔面や眼の周囲に発疹が出た場合は、視力障害、顔面神経麻痺、髄膜炎など重い合併症を引き起こすこともあります。

帯状疱疹は40歳以降で増加し、特に高齢者、糖尿病などの持病がある方で発症しやすくなります。治療は抗ウイルス薬の内服が中心で、発症から早期に開始するほど効果的です。PHNが残った場合は、痛みに応じて鎮痛薬や神経痛の薬を使います。

水疱の中にはウイルスが含まれており、水ぼうそうにかかったことがない人に感染させる可能性があるため、水疱が破裂した際はガーゼなどで覆うことが大切です。全てかさぶたになれば感染力はなくなります。

診断と治療

節目年齢も対象には自治体から費用の助成が受けられます。具体的な助成額は自治体毎に異なるため、ホームページ等でご確認ください。

シングリックスは通常2か月あけて2回接種します。接種部位の痛みや発熱、倦怠感が出ることがありますが、多くは数日で改善します。

感染症科 医師紹介



部長
小出 容平
(コイデ ヨウヘイ)

専門分野…

感染症・呼吸器疾患

認定医…

抗菌化学療法認定医

結核・抗酸菌症認定医

専門医…

日本専門医機構認定内科専門医

メッセージ

2024年4月より入職しました感染症科医師の小出 容平と申します。浜松で初期研修を終え、長崎大学で主に呼吸器内科の研鑽を積んできました。幅広い呼吸器疾患の中でも感染性疾患に興味を持ち、現在は感染症診療を主として精進しております。感染症は老若男女問わず命を脅かす危険な病気です。何かお困りな事がありましたら、当科外来までお気軽にご相談ください。

まとめ



日本では50歳以上の方、または免疫が低下している18歳以上の方に接種が推奨されています。2025年度からは高齢者の定期接種が始まり、65歳の方（2029年度までは70・75・80歳など）

接種方法と助成制度



日本では50歳以上の方、または免疫が低下している18歳以上の方に接種が推奨されています。2025年度からは高齢者の定期接種が始まり、65歳の方（2029年度までは70・75・80歳など）

日本では50歳以上の方、または免疫が低下している18歳以上の方に接種が推奨されています。2025年度からは高齢者の定期接種が始まり、65歳の方（2029年度までは70・75・80歳など）



帯状疱疹は身近で、多くの方が一生のうちに発症し得る病気です。特に50歳以上ではリスクが高まりますが、ワクチン接種により発症と後遺症の両方を大幅に減らすことができます。今年度65歳になられる方をはじめ、接種対象の方はぜひワクチンを検討してください。

当院では、かかりつけ患者さんを対象に帯状疱疹ワクチンの接種を行っています。ご不明な点があれば、感染症科までお気軽にご相談ください。